

古い建物が生み出す、出会いの力

冷泉荘管理人

杉山 紘一郎



すぎやま こういちろう

1980年名古屋生まれ。九州大学大学院にて風により音を奏でる「エオリアン・ハーブ」を研究し、2010年に博士号（芸術工学）取得。エオリアン・ハーブの実験研究の協力をさせていただいた縁から、冷泉荘の運営会社（株）スペースRデザインへ入社。冷泉荘の古さを価値に変えていく力に共感し、廃材を楽器へと変えていく「サウンド・リノベーション」の活動をときどきしながら、博多の文化系ビンテージビル「リノベーションミュージアム冷泉荘」管理人としてビルプランディングを行っている。
冷泉荘Webサイト <https://www.reizensou.com>

こんにちは。福岡・博多で築63年の文化系集合アパート「リノベーションミュージアム冷泉荘」管理人をしている杉山です。少子高齢化が課題の日本。建築物も老朽化と空き家問題が生じており、人だけでなく建物の高齢化が大きな課題となっています。エレベーターがない、断熱がなされていない等、古い建物は快適さという点では乏しい部分がありますが、長い時間たくさんの人の生活の場として愛され、その土地の歴史や風景のひとつとなっていることに思いを馳せると、親しみや愛着を感じてきます。特に、今も元気に活用されている古い建物に入るととてもワクワクするのですが、そのような経験はありませんか？

私が管理人をしております「冷泉荘」の紹介をさせてください。福岡市博多区上川端町で、5階建て鉄筋コンクリートの集合住宅アパートとして1957年に建てられた建物ですが、老朽化が進み2000年ごろにはスラム化。オーナー・吉原住宅有限会社の吉原勝己さんによって、古さを価値へと変えビル再生する「ビンテージビル創出」の想いを軸に、2006年に住居からビル1棟を集合アトリエとして再生した建物です。アーティストやクリエイティブな方を中心に募集し、現在はアーティストだけでなく旅行やまちづくり、教室など幅広い業種の文化人が20組集まっています。まちの方も利用可能な1階のギャラリーでは、作品展や展示販売、セミナー、演劇、落語会など多様なイベントも日々開催され、博多の文化発信拠点のひとつともなっています。耐震改修工事など大規模メンテナンスを実施し、



スラムからまちの出会いの場となった「冷泉荘」

古さを大切にしながらビルを活性化し続け、築100年を目指し運営を続けています。

私はプロジェクトのディレクターとしては3代目、管理人／コミュニティデザイナーとなってもうすぐ12年目。たくさんの人やアート&カルチャーとの出会いがあり、いまでも毎日楽しく運営しております。多くの人が活動してきた古い建物だからこそ、ここなら自分の活動や表現を実現できるという場の空気感を生み出し、たくさんの方が集まっているのではと感じています。福岡都心部では先進的なビルへの建替を促進し新しい場を生み出すプロジェクトが進行しており、冷泉荘近くもどどんまの風景が変わっておりますが、新しい技術を取り込みつつ古い建物のもつ魅力を引き出し、ビンテージビルの楽しさを発信し続けたいと思っております。福岡にお越しの際はぜひ冷泉荘をご覧にいらしてくださいませ。